

編集者
(編集長)
和田
(編集)
宮澤 尾形 荻野

駒場高校新聞

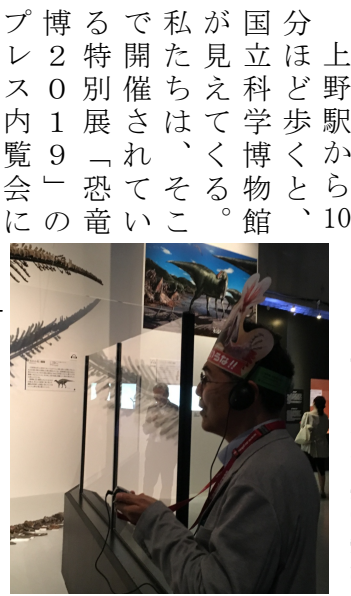
THE KOMABA HIGH SCHOOL NEWS

2019年8月発行 特別号
目黒区大橋2の18の1 TEL (3466) 2481 都立駒場高校新聞局

特別号

恐竜の歴史はここから始まった

映画やアニメでよく見る恐竜。迫力ある姿にロマンを感じる人も多いだろう。そんな恐竜のあれこれを知ることができる特別展「恐竜博2019」を紹介する。



「むかわ竜」に見入る松本先生

上野駅から10分ほど歩くと、国立科学博物館が見えてくる。私たちは、そこで開催されている特別展「恐竜博2019」のプレス内覧会に参加した。本展では、ディノニクスの化石発見後、50年間の研究成果が示されている。その50年間は恐竜研究が著しく発展したため恐竜ルネサンスという。展示では、そのきつかけとなったディノニクスの後ろ足の化石、世界初公開のディノケイルス全身復元骨格、日本で発見された「むかわ竜」など盛り沢山だ。しかし展示だけ見るのではもったいない！展示方法も工夫されているため、一緒に楽しむべきである。ライトアップによる化石の影の出

方や空中を使うなど化石がより魅力的になる演出に、心を惹かれた。また進んでいくと、巧みなCG技術が使われた映像があった。一目で恐竜の生きた世界が分かり、立ち尽くすほどの臨場感のある映像だ。この迫力ある映像を見逃さないで欲しい。

この夏、特別展「恐竜博2019」を訪れて、化石の迫力や恐竜の歴史を感じるのはどうだろうか。きつと恐竜ルネサンスという新たな恐竜史の始まりを感じられるはずだ。

(宮澤)

恐竜博2019 The Dinosaur Expo
会期: 2019年7月13日(土)~10月14日(月・祝)
開館時間: 午前9時~午後5時(金曜・土曜は午後8時まで) ※8月11日(日・祝)~15日(木), 18日(日)は午後6時まで
休館日: 7月16日(火), 9月2日(月), 9日(月), 17日(火), 24日(火), 30日(月) 開館時間や閉館日等については変更する可能性があります。公式サイト等でご確認ください。
チケット: 一般・大人1,600円 小・中・高校生600円 金曜・土曜限定ペア得ナイト券 2名1組2,000円 (会場で当日17時以降販売。2名様同時入場限定)

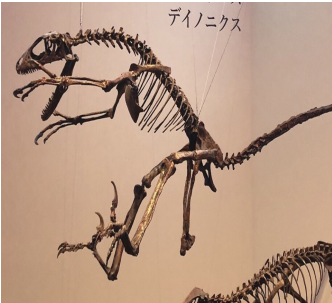
いままら聞けない恐竜のあれこれ

- Q. 私たちが小さい頃に見てきた恐竜には毛が生えていなかったのですが、なぜ最近の恐竜には羽毛があるのですか?
- A. かつて恐竜は爬虫類の系統で、ウロコのような肌をもつとされてきました。しかし最近になって鳥によく似た動きをする恐竜や羽毛恐竜が発見されました。そして恐竜は鳥に近いのではないかという説が有力になってきたため、恐竜の肌に羽毛が描かれるようになりました。
- 回答者: アルゼンチン自然科学博物館 比較解剖学研究室室長 フェルナンド・ノバスさん
- Q. こういった展覧会へはどのように化石を運んでいるのですか?
- A. 会場へは綺麗に梱包して、専門の方が飛行機で運んでくれます。しかし今回いくつかの展示物が壊れてしまっていました。そこで北京大学の佐藤哲哉さんに直してもらいました。運ぶ時にしっかりと梱包することはもちろん、どこまで直せるか、直せる人がいるのかも重要です。
- 回答者: 国立科学博物館 標本資料センター コレクションディレクター 真鍋真さん

最初に私たちが迎えてくれたのは、恐竜の後ろ足のホロタイプ標本だ。この恐竜は鋭いカギツメを後ろ足にもつことからディノ(恐ろしい)+オニクス(ツメ)を意味する学名がつけられた。ディノニクスはこのカギツメとそれを持ち上げる特殊な関節により、大きな恐竜気づく。よって、ディノに飛び蹴りをする予ノニクスのような恐竜に飛び蹴りをする予ノニクスと考え、そこから始祖鳥、そして今までの「愚鈍」と考えの鳥へ進化したという見解に繋がったそう。

今この鳥類の祖先が恐竜であると分かり、今までよりも恐竜に親近感が湧いた。この化石はアメリカのイェール大から借りたもので、監修者である真鍋真先生は「きつと二度と日本にこないと思うのでこれが見たいツメか」と見ていってください。

***ホロタイプ標本とは?**
完模式標本とも訳され、学名の参照基準となる一個体の標本。



跳ねるディノニクス

2種のディノが歴史を変えた

見えた。その名はディノケイルス。世界初公開の全身復元骨格だ。1965年、その前足が発見された。それが肩関節から指先まで2.4メートルもある

とのおっしゃっていた。それほど貴重な化石で、その手からディノ(恐ろしい)+ケイルス(手)を意味する学名がつけられた。ディノケイルスは、近年他の部分の実物を集めていたとされる。近年他の部分の実物が前の方にあることなど、他の恐竜とは違った形の身体をしていることが分かった。また、胃の中から小石が発見され、植物をすり潰すためのものだと考えられている。



これまでも前あし以外が発見されず「謎の恐竜」と知られていた。今「へんてこな恐竜」の代表として世界中に知れ渡っている。恐竜といえば強くて怖いというイメージで、どこか近寄りたいたいところがあるが、へんてこな恐竜もいることを覚えて欲しい

(宮澤)

ニクス&ケイルスどっちがどっち?
早見表
(ニクス) 後ろ足にカギツメ
前足は鳥のように動く
恐竜ルネサンスのきつかけ
(ケイルス) 植物を集める巨大な前肢
少し変わった身体の形

前代未聞の大発見! 「むかわ竜」に迫る!

恐竜博の2つ目の目玉、それが日本の恐竜研究史上最大の発見と評される「むかわ竜」である。体長約8メートルの恐竜で、全身の8割が残っていることは非常に珍しい。そんな「むかわ竜」の全身復元骨格が世界初公開されるのである。

「むかわ竜」の化石が発掘されたのは北海道むかわ町である。むかわ町は北海道の南に位置しており南北に長く、人口は約八千人の町である。



鍵は海の地層に!?

「むかわ竜」が見つかったのは海の地層であり、このことは非常に重要な意味を持つそうだ。ただ死骸が海に流されただけかもしれないが、そうではない。すでに

「むかわ竜」展示エリアのここがスゴイ!

「むかわ竜」の展示には、上から吊るされた鏡が使われている。これのおかげで、「むかわ竜」の全身が復元された骨格模型と実際に発掘された全身化石を上から見ることが出来る。

「むかわ竜」の化石の周りには同じような地域に生息していた海の動物の化石が展示されている。そしてこれらの化石を見たあとには、「むかわ竜」が生きた世界やその様子を高精細映像で見ることが出来る。化石として展示してある生物たちが実際に動いている姿を見ることができ、「むかわ竜」の皮膚の様子まで想像されているので、ぜひこのシアターは通り過ぎないで見ていただきたい。

↓世界初公開の「むかわ竜」



恐竜の時代に想いをはせて:

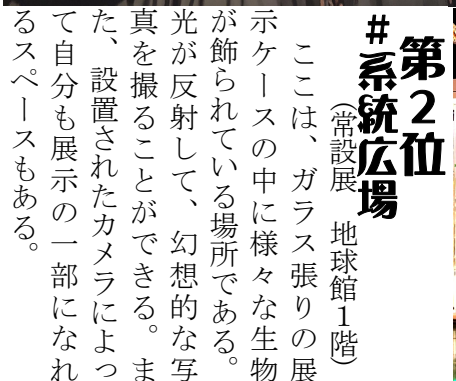
今の高校生が小さい頃は、日本にはティラノサウルスのような有名な恐竜や大きな恐竜「むかわ竜」が見つかつたことで日本にも大きな恐竜はたくさんいたと予測できる。それを考えると想像も広がります。恐竜に興味が出てくるのではないだろうか。ぜひ、生で「むかわ竜」の化石や全身模型を見て想像力を掻き立てていただきたい。(和田)

これであなたも Instagrammer

いまどきの高校生、特に女子生徒は「インスタ映え」のする場所を訪れて写真を撮り、SNSにその写真をアップロードする人が多い。そこで駒場高校新聞局は、国立科学博物館の中で「インスタ映え」するスポットを探し、ランキングにした。ぜひ、実際に訪れて写真を撮ってほしい。(他のお客様の迷惑になる行為やフラッシュ撮影は禁止)



#第1位 ティラノサウルス
(特別展「恐竜博2019」)
堂々たる第1位は、恐竜の王様ティラノサウルスである。ティラノサウルスの全身を単体で撮っても、人が食べられそうになっていないポーズで撮ってもよし。常設展にも3体のティラノサウルスがいるので、撮り比べて楽しむこともできる。



#第2位 システム広場
(常設展 地球館1階)
ここは、ガラス張りの展示ケースの中に様々な生物が飾られている場所である。光が反射して、幻想的な写真を撮ることが出来る。また、設置されたカメラによって自分も展示の一部になれるスペースもある。



#第3位 時を知るー時計ー
(常設展 日本館1階南翼)
ここには昔使われていた時計がたくさん展示されており、アンティーク好きにはたまらない場所である。少し洒落た雰囲気の写真撮りたい人にぜひおすすめしたい。

特別展「恐竜博2019」が開催されているのは国立科学博物館、略して科博である。(以後科博と省略)
科博は東京・上野公園にあり、JR山手線「上野駅」から徒歩5分、東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分、京成線「京成上野駅」から徒歩10分とアクセスも便利である。そしてなんと、**下は常設展に無料**で入れるところが最大の魅力である。(恐竜博2019は入場料600円)

おすすめポイント1 見所満載の常設展
常設展は日本館と地がって楽しく覚えること球館の2つに分かれてとができると感じた。日本館では、動物の動きが数多く展示されており、地球全体の動植物の剥製を見ることができ、地球全体の動植物の剥製を見ることができ、科学技術の発展なきたり、アンティークなどがよくわかる展示の時計などおしゃやれなたくさんある。それぞれの展示には**シアター360**展示もたくさんある。

そうだとオフに科博、行こう。

ここは、直径約13メートルのドームの内側360度全方位に映像が写し出されるシアターだ。独特の浮遊感が味わえ、また無料で楽しむことができる。様々なジャンルの6本のオリジナル映像が月ごとに2本組み合わされて上映されているので何度でも楽しめるおすすめの設定だ。ぜひ部活がないオフの日には、気軽に科博に遊びにいってほしい。(和田)